

山形の発掘調査最前線

—上の寺遺跡—



会期：2010年7月21日(水)～8月6日(金)
会場：村山総合支庁玄関ロビー

主催：(財)山形県埋蔵文化財センター

上の寺遺跡

上の寺遺跡は、国指定重要文化財の薬師三尊やくしさんぞんや十二神将じゅうにしんしょうで有名な、寒河江市の慈恩寺じおんじの近くにあり、県の農免農道整備事業に関わり、平成19年～20年にかけて発掘調査が行われました。

慈恩寺は神亀元年(724年)、行基ぎょうきの開山と伝えられます。平安時代には摂関家藤原氏や平泉藤原氏、鎌倉・室町時代には寒河江庄地頭の大江氏、戦国時代から江戸時代の初めにかけては山形の最上氏の庇護を受けました。

調査では、鎌倉時代から江戸時代の遺構と遺物が見つかりました。中世に薬師三尊や十二神将を納めていた閻持院もんじいんという寺の伝承地付近からは、6間×7間の規模で並んだ大型の柱穴列が見つかりました。建物跡か区画のための施設跡と考えられます。付近からは宝篋印塔ほうきょういんとうなどの石塔が出土しています。

また幅2m、深さ1mの大きな溝も見つかり、その最上層からは16世紀末の出土品とともに、石塔が見つかりました。江戸時代になる直前、溝を埋め、石塔を捨てるような大きな異変いへんがあったと考えられます。

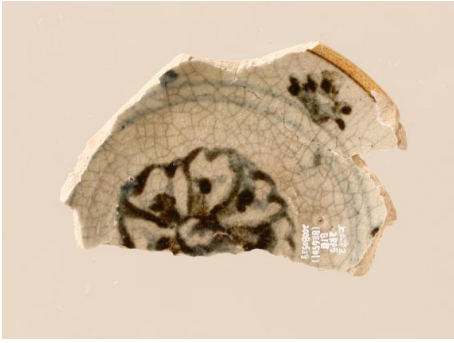


人が入れるほどの柱穴が長方形に並んでいます



宝篋印塔の出土状況

陶磁器



青花（皿）



青白磁



肥前磁器（碗・皿）



中国陶器



青磁（碗）



播鉢（すりばち）

土製品・鉄製品



フイゴ羽口



鉄滓（てっさい）

石製品



板碑



宝篋印塔



五輪塔



宝篋印塔（ほうきょういんとう）